

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400922		
法人名	医療法人 敬和会 近藤病院		
事業所名	ゆうあいグループホーム		
所在地	岡山県真庭市勝山1080番地		
自己評価作成日	平成 27年 8 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&jigyosyoCd=3373400922-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 27年 9 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心かつ寄り添うケア」という理念のもと、入居者に対し、職員が同じ方向で関われるよう、理念を具体的に理解し、独自の『座る運動』の実施や『～したいシート』の活用を行い、一人ひとりの声を大切にしている。
また、『居場所作り』にも力を入れている。また、ES(職員満足)活動にも力を注いでおり、職員の声も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県北ののどかな地域にある事業所は、経営母体である医療法人の病院がすぐ近くにあり、また隣には保育園が併設されている。医療面での安心はもちろんのこと、子どもたちの生き生きとした日常を間近に感じる事ができる恵まれた環境にある。地域、行政、同業者との幅広い交流と連携が実現されている。職員も組織の構成員として、一人の人間として、また社会人として自分自身の成長を意識して自発的、意欲的に利用者にかかわっている。利用者と職員と一緒に準備をし、家族も交えて食を楽しむことのできるイベントが企画されていて好評である。今後一層の工夫が期待される点としては、短時間でも、日常的に戸外に出る機会を増やして利用者のQOLの向上を図っていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心かつ寄り添うケアを目指す」を念頭に掲げ、毎朝唱和している。また、抽象的である表現を具体的に示し、そこからさまざまな取組を行っている。	理念を具体化するために何ができるかを考えて、「座る運動」を標語として可能な限り利用者のそばに座り、コミュニケーションや見守りをするを日々の活動目標としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には毎回地域の方の参加がある。また、地域行事にも入居者と参加している。地元商店から食材を購入し、配達して頂いている。	隣設する保育園の園児の遊ぶ姿が間近に見られる。近隣の住民による家事、生け花、菜園の手入れなどのボランティア、また中学生や高校生の体験学習を受け入れて、地域との自然な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者家族方を中心に家族会を設けており、家族会時には質問等受けている。また、日々の生活の中でその場その場で質問等に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	警察署、地域住民等の参加があり、様々な情報をいただいております。また、得た情報をご家族、職員に知らせている。必要時には、実践している。	会議は2ヶ月に一度開催され、地域の方からも貴重な情報をいただいております。家族会と併せての食事会も有り、時には世間話に脱線する事もあるが、交流の場としても活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加及び市内のグループホームが集まり、4カ月に一度連絡会議を設けて情報の交換をしている。	市役所の会議室を貸してもらい地域のグループホームの連絡会議を開催したり、何かにつけ行政と連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修を受け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合はご本人、家族に十分説明し同意を頂いている。玄関は日中施錠していない。	夜間は居室の外鍵をかけている。転倒防止のため家族の了承を得てセンサーマットを使用している。法人グループの介護部教育委員会での職員研修、また県のマニュアル本を使った同業者合同の研修会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の場を持ち、虐待防止に対する理解や意識の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は成年後見制度の研修会には参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明に努めている。利用料、看取り、転居、リスク等の説明には時間をかけている。書面にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の方が面会に来やすい雰囲気作りには留意している。また面会に来られた際には、ご家族からの意見、要望を伺うようにしている。生活の様子をお伝えしたり、家族と入居者の会話や雰囲気作りを行っている。意見等あればその都度対応している。	家族から誤薬を予防するための提案をいただき、採り入れている。全国の「ご当地グルメ」を企画し、食事会を開催したり、意見や要望を言いやすい雰囲気を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催しており、意見交換の場として活用している。職員が意見、要望を言いやすい雰囲気作りには留意している。また個別にも聞き取りやすい場面を作るよう努めている。	年2回個別面談を行いそれぞれの目標を聴いている。職員をねぎらうための食事会をしたり、日頃意見を言いやすい雰囲気を作って、良好な関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	院内保育園を設置、子育てと仕事の両立を支援している。ES活動も行われ職員の声を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加した研修全てに報告書を作成しており、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。また、今年度の目標に、「認知症への理解」を設定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4ヶ月に1回市内のグループホーム職員が集まり、連絡会議を開催している。また、キャラバンメイトにも登録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、入居者・家族の話をゆっくりと伺うようにしている。うかがった話は否定せず共感を持つ。要望に対してすぐに対応する姿勢を取るようになり、安心して過ごせるような関わりが心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、ニーズは何なのか、話を十分に聞いている。連絡を細目に取り、その都度話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の会話の中や表情等から不安に思っている事や困っていることを汲み取り、出来る事はすぐに対応している。また、困難なことも一緒に方法を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂き、出来そうな事へも一緒にいき、役割を持って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族へ生活の様子が分かる写真と文面にて様子や連絡事項を送付している。また、家族代表者以外にも2ヶ月に1度は近況を記した手紙を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の帰宅支援や馴染みのあるお店への買い物などを行っている。知人友人に連絡を取り、訪問してもらっている。定期的に馴染みの美容院にも通っている。	面会者は、近所の友人、知人、親戚など在宅の時からつながりのある方も多い。また、ある技芸の指導者だった利用者は現役時代の教え子が気軽に訪れたり、様々な方が面会に訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や気の合う方同士で過ごせる場面作りや席の配置を行っている。孤立しがちな方には、職員が調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人老健施設や病院へ面会へ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望が汲み取れる関わりを持つように努めている。「したいシート」を活用して職員全員が把握出来るようにしている。	介護度や状態に応じて利用者の座席の位置を変えてみたり、何を必要としているのか意向を見極めながら見守り、接している。食思不振の利用者の嗜好や習慣を把握して、食事を増やす工夫もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族、介護支援専門員等より情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや伝達シートの活用等により情報の共有を行い、入居者の状態を把握し、その時々に合わせて対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族からは日々の生活の中から、思いや意見をうかがい、反映させている。職員会議時また、普段の生活の中で意見やアイデアを聞くようにしている。	モニタリングを行い、職員全員が意見を書き込んだ「担当シート」も活用し、医療関係者の意見も採り入れ、職員会議で話し合って利用者本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・受診や薬等が細かく分かる様式へ見直しをして記入している。特に注意する事や変化は申し送りや伝達ノートにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅支援や外出援助、買い物等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方により生け花、ギター演奏、舞踏等楽しみにされている。また、地域のお雛祭りや文化祭にも参加出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回以上の訪問診察と必要時の受診を行っている。定期検診も年に一度行っている。	法人グループの病院が協力医療機関となっている。従来のかかりつけ医への受診は家族の通院介助で継続している。病院からは毎月在宅療養計画書が家族に提出されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にて随時、報告や相談をしている。状態に応じて受診や訪問診察の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護添書、口頭にて情報提供している。入院時には医療連携室との細かい連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時・終末期の意思とホームの方針を本人と家族で書面にて確認している。またホームでの最期を希望された場合には状態に応じ、対応を行っている。	入居時に終末期の方針を説明している。毎年急変時における対応について説明をし同意書をいただいている。医療的処置が必要なときは法人の看護師に来てもらっている。職員は前向きに看取りの勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回心肺蘇生法の研修を法人全体で行っている。急変時のマニュアルは見える場所に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練(実践やマニュアルの読み合わせ、設備の説明)を行っている。また、地元消防団の機庫にホーム見取り図を貼ってもらっている。	消防団の方にも認知症への理解を深めていただき、災害時に役立つように努めている。法人グループ合同の避難訓練も定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに応じた声かけを行っている。馴れ合いの中でもその人を尊重した声かけを行っている。	人格を尊重しながらも親しみをこめた名前の呼び方を、家族や本人の希望を聴いたうえで用いている。主体を利用者においた関わり方を考え、トイレ誘導の際にも笑顔で優しく言葉をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、思いや希望を引き出させるような働きかけを行っている。また、独自の『座る運動』の実施、聞き取った事は「したいシート」に記入している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームにて訪問美容院の方が来られ、カットやカラーを行っている。ご本人が希望される化粧品を購入したり、馴染みの美容院にてカットやパーマを行っている方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けまで入居者と一緒に行っている。毎週の献立会議や日々の関わりの中で希望を取り入れて個々に応じた形態を提供している。また、ホーム畑で収穫した野菜も食事として提供している。	毎月行われる全国縦断の郷土料理を振る舞う「ご当地グルメ」企画は26回にもなり、ご家族にも大変好評である。毎週利用者と職員と一緒に献立会議を開いて、希望の料理を聞いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりその時に応じた形態や量を提供している。食事、水分摂取量はチェック表を活用し、把握している。食べれない時は個々に応じた食べ物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る限り自分で出来るような声かけや介助にて口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、トイレでの排泄を支援している。また、紙パンツ、パッドなどの排泄用品も本人に合わせて検討している。失禁が減った方もいる。	各居室にポータブルトイレが有るが、昼間は寝たきりの方を除いて全員トイレでの排泄を誘導して自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体格や体調、年齢等、一人ひとり状況は違うが、制限がない方以外には水分を日に1500ccを目安に摂取出来るよう努めている。摂取量はチェック表を使用している。下剤等使用している方は主治医の協力の下、見直しも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な1日の流れがありそれに沿って行っているが、必要時や希望時には対応している。	浴室は露天風のように中庭を眺めながら入浴が楽しめる。基本的に週に2～3回の午前中の入浴になるが、利用者の状態に応じて午後に変えたり、清拭や足浴で入浴に替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ休める時間を設けている。寝具や温度、部屋の明るさも調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診察において相談や調整、見直しを行っている。誤薬のないよう指差し確認や声出し確認、薬袋への線引きを行っている。確実に飲めるよう支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を大切に支援している。買い物1回生け花等の趣味活動も実施している。漬け物作りにも挑戦している。また、園児との交流もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物は入居者の希望にて対応している。お雑祭り、外食等全員での外出も行っている。また、希望者には家族との外出も計画している。	リビングからバリア無しでウッドデッキに出て日常的に外気にふれることができる。自立して歩ける利用者は菜園の野菜の水遣りなど戸外に出ている。	ボランティアなどの手を借りることも検討して、個別にでも、敷地内でも、また短時間でも、日常的に戸外に出る機会を増やすことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で管理しているが、本人の希望やご家族の協力で少額を持っている方もいる。入居者の力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話にて連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、畑には季節の野菜を植えて収穫している。居室には毎月の生け花で生けた花を飾っている。温度や雰囲気作り等、不快のない環境整備に努めている。	天井が高く、外光を取り入れて明るく開放的なリビングは画一性を感じさせない非対称の構造で、外の景色がよく見える。移動式の畳の座席は利用者の体調に応じて多目的に活用されている。常に換気にも気をつけて、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、席の工夫も行っている。また、ソファーや畳スペースも設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されている方もある。好みの写真や思い出の写真を飾っている居室もある。本人や家族と相談しながら、担当職員を中心に居室作りを行っている。	広い居室は採光も十分で、在宅時の馴染みの家具や道具が持ち込まれ、それぞれの個性が表現されたような空間になっている。遠方からの面会のため連泊する家族も気兼ねなく寛げる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーに環境である。同意を得られた居室、下駄箱に名前を掲示している。		